



Weekly Market Report

Jan 30, 2023

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

今週は中銀政策決定会合や経済指標に注目。今後の方向感を探る展開か。

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円相場は130円を挟んでレンジ内で推移する展開。週初は前週の日銀緩和政策維持を受けた円金利低下の流れを受けてスタート。日米金利差が意識されたことに加え、海外勢主体の円売り調整もあり、円安が進行。その後、発表された米PMIが予想比で良好だったことから131円を超える場面が見られるも、一時的。FRBが利上げベース鈍化させるとの見方から129円台前半まで下落。週末にかけては各指標や他通貨の影響で上下するもポジション調整が主体の動き。26日発表の米4QのGDPでは個人消費の堅調さが確認されるも、方向感に欠け、129円台で越週している。今週は中銀の政策決定会合や重要経済指標が相次いで発表される。FOMCでは0.25%の利上げが織り込まれているが、今後も利上げ継続について言及があれば、一時的にドル買いが進む可能性。一方で、日銀の政策修正もくすぶる中、米国のインフレは鈍化傾向にあり、上値の上昇は限定的と考えられる。(市場営業部/嵯峨)

今週の経済指標 (予定)

USD/JPY (5年間)

日付	イベント	予想
2/1(水)	(欧州) 1月消費者物価指数(前年比)	9.0%
2/1(水)	(米国) ISM製造業景況感指数	48.0
2/1(水)	(米国) 米連邦公開市場委員会(FOMC)	-
2/2(木)	(欧州) 欧州中央銀行 (ECB) 理事会	-
2/3(金)	(米国) 雇用統計	-



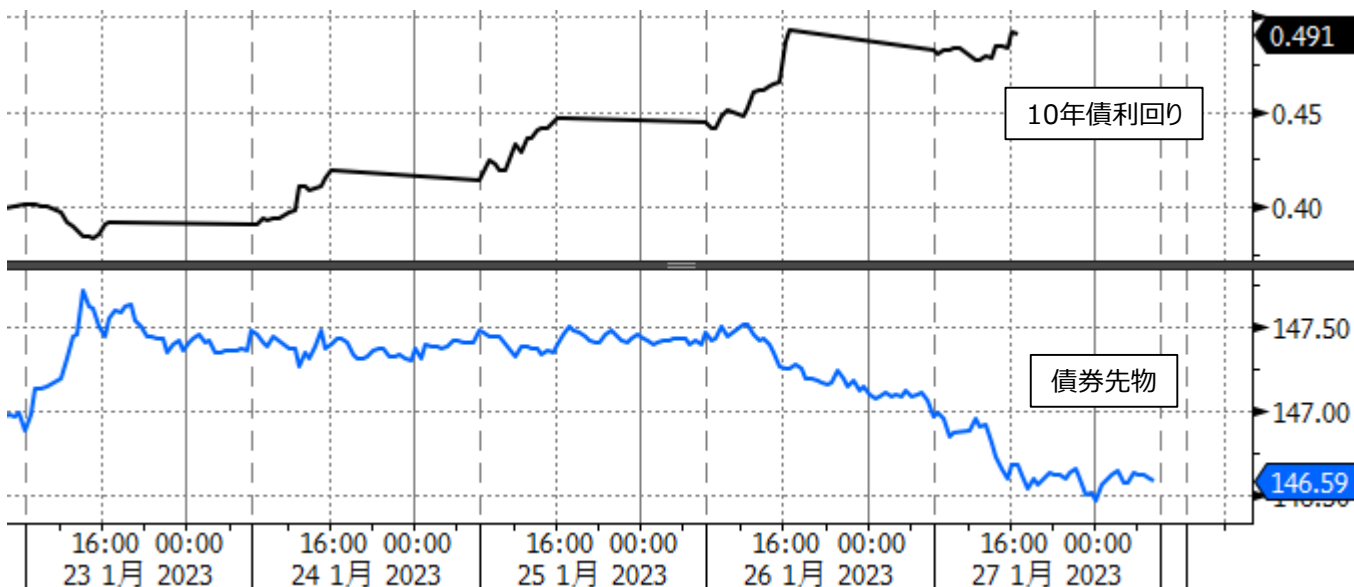
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
山下航平	127.90 – 130.90	今週はFOMC、米雇用統計と重要イベントを控える中、米インフレが鈍化傾向にあり、ドル円の上値は限定的か。
下出康平	127.00 – 131.00	1月31日-2月1日のFOMCに注目。将来的な利上げの休止について発言があった場合、ドル売り圧力が強まると予想。

2. 円金利相場概況

10年債利回りは再び日銀上限の0.50%に接近。10年債入札までは金利上昇し易い展開か。

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 20 日 30 分 Copyright© 2023 Bloomberg Finance L.P. 30-Jan-2023 07:49:56

コメント

(出所) Bloomberg

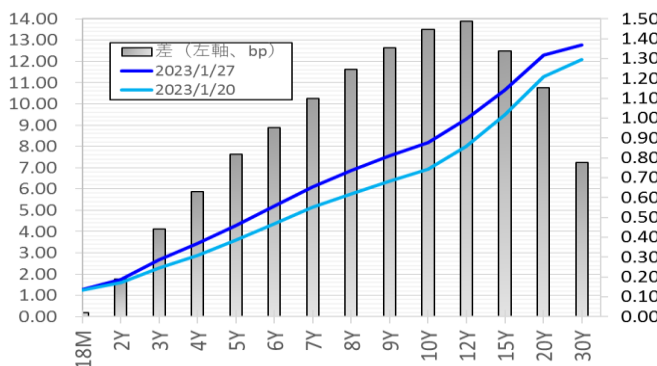
先週の10年債利回りは前週の日銀決定会合後の先物買戻しの流れが一服し、再び日銀上限の0.50%近辺まで上昇する展開となった。週初は、前週の日銀決定会合を受けた先物買戻し基調が継続する中、日銀が初の5年物共通担保オペをオファー（金額1兆円、応札倍率3.13倍）したことで中期ゾーンを中心に金利低下し、10年債利回りも一時0.39%程度まで低下した。その後は、先物買戻しの流れが一服する中、26日の40年債入札は生保・年金勢などの需要により順調な結果となるも、上値が重い展開となった。週末は1月東京都区部CPI（+4.3%、前回：4.0%、市場予想：+4.2%）の結果上振れを受け、先物は朝から売り優勢となり、10年債利回りは再び上限0.50%近辺まで上昇した。今週は31日に2回目の5年物共通担保オペが予定されているものの、日銀政策修正観測が根強い中、10年債入札（2/2）への警戒感から金利上昇圧力は強まり易いだろう。また、FOMC（1/31～2/1）、ECB理事会（2/2）や、米ISM製造業指数（2/1）、米雇用統計（2/3）など重要イベントが目白押しであり、海外動向にも注目したい。（市場営業部/福永）

金利スワップ変化（1週間）

(%)

10年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
加藤祐樹	0.43% - 0.50%	FOMC結果発表後のパウエル議長による会見において、ハト派コメントが出た場合の米金利下振れには注意が必要。
小野口裕美子	0.43% - 0.49%	本邦政策修正観測が熏り10年債入札に向けて金利上昇しやすい。FOMCやECB、BOE、米雇用統計などイベントにも注目。

3. 今週のトピックス

英国経済動向

英国中央銀行による金融政策と債券相場動向

BOEの金融政策

2022年12月15日開催された英国中央銀行（以下BOE）の理事会では、政策金利を3%から3.5%へ0.5%引き上げることを選んだ【図1】。BOEは高インフレに対応するために継続利上げ中であり、この利上げによって9回連続での引上げとなったものの、景気後退への危機感を背景に利上げ幅は前回の0.75%から0.5%へ縮小している。同日発表された声明文では労働市場の逼迫を背景にインフレ圧力の高まりが懸念され、今後の追加利上げが示唆された一方で、今回のBOEメンバーの内2名は金利据え置きを支持しており、引き続き今後の経済や物価動向を踏まえたBOEの金融政策に注目が集まる。なお、次回2023年2月の理事会における政策金利の引き上げ幅については、0.5%の予想が大勢を占めている。

英国の物価動向

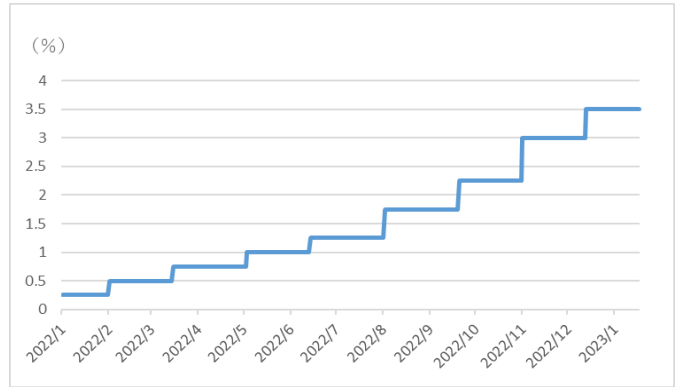
英国国家統計局（ONS）によると、2022年12月の消費者物価指数（以下CPI）は、前年同月比+10.5%となった。11月のインフレ率+10.7%からは僅かに鈍化したとはいえ、依然としてBOEの目標値である2%を大幅に上回る高い伸びが続いている【図2】。内訳別にみるとガソリン、エネルギー価格の上昇率が鈍化した一方で、食料品関連の上昇率が加速。米国、ユーロ圏ではインフレピークアウトの兆しが見える中、英国内では賃金上昇率を上回る物価上昇が家計を圧迫している。大幅な賃上げを求めて、医療、交通等公共サービスを中心に広範なストライキが頻発すれば、今後の経済活動への影響も懸念される。

債券相場動向

トラス前政権による大幅減税を柱とした大バラマキ政策を受け、マーケットは一時債券安、株安、通貨安のトリプル安に見舞われ、昨年9月には1985年以来の安値を更新している。その後はスナク新首相が減税計画を撤回し、歳出削減案を策定したことで、債券も持ち直しつつある。但し、インフレ鈍化と景気悪化懸念から、マーケットは年内にも利下げを織り込みつつあり、対ドルでの債券相場は下押し圧力がかかりやすい展開を予想する。対円についても、日銀による金融政策の修正期待が高まる中、上値を迫る展開は想定し難い。今月、BOEのバiley総裁はインフレは急速に鈍化していると発言しているが、一方で英賃金は過去最高に迫るペースで上昇しており、労働市場は依然タイトな状況が続いている。経済活動が安定化するまでは債券は軟調な展開で推移するだろう。

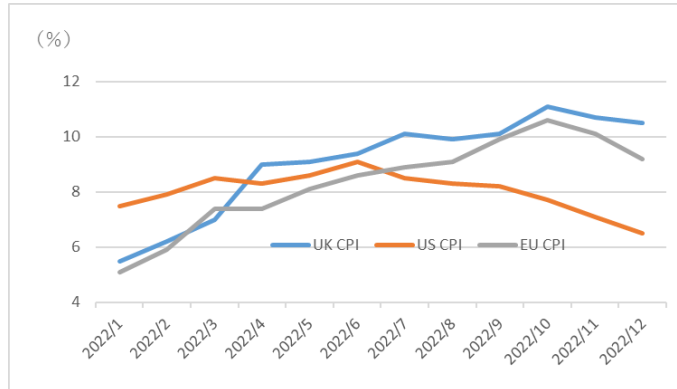
(市場営業部/山下)

【図1】英国の政策金利推移



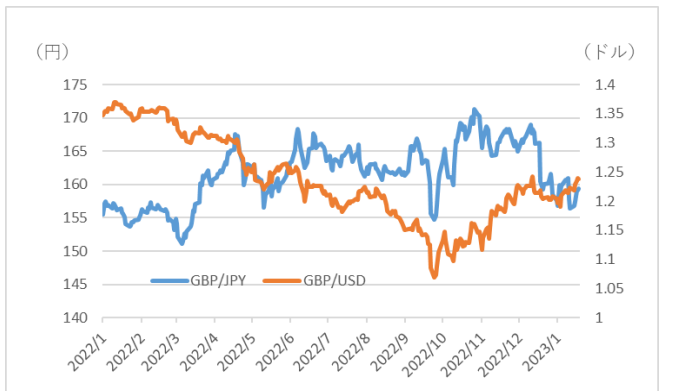
(出所：Bloomberg)

【図2】主要国の消費者物価指数（CPI）



(出所：Bloomberg)

【図3】債券の対ドル、対円推移



(出所：Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会